



新国立劇場 2025/2026 シーズンオペラ 開幕公演

令和7年度(第80回)文化庁芸術祭オープニング・オペラ

プッチーニ
ラ・ボエーム

La Bohème / Giacomo Puccini

2025年10月1日(水)～10月11日(土)

会場:新国立劇場オペラパレス 2025年8月9日(土) 10:00～ 前売開始



2012年公演より

パリの屋根裏部屋に灯った恋 美しくも儂い永遠のラブストーリー

芸術の秋、新国立劇場 2025/2026 シーズンのオープニングは、永遠の青春オペラ『ラ・ボエーム』です。パリを舞台に、詩人ロドルフォとミミの儂い愛、そして明日の成功を夢見る若き芸術家たちの貧しくも自由な生活を描いた『ラ・ボエーム』は、プッチーニの甘美な旋律がとびきりロマンティックな物語を紡ぐ、永遠のラブストーリーです。パリの町を俯瞰するような粟國淳演出の舞台は、豪華にして繊細。丁寧な心理描写で若者たちの愛と喪失の物語を映画のように描き出し、感動を誘います。

名匠オルミのもと、コスタ＝ジャクソン、ガンチほか注目キャストでシーズン開幕

プッチーニの名作に、名匠パオロ・オルミの指揮のもと注目のキャストが大集結します。ヒロインのミミには感情表現が絶賛されるマリーナ・コスタ＝ジャクソンが新国立劇場初登場。ロドルフォにはトップテノールのルチアーノ・ガンチ、マルチェッロにはイタリアの実力派バリトン、マッシモ・カヴァレッティが出演。コケティッシュなムゼッタには活躍の続くソプラノ伊藤晴が登場。実力派が揃い、新シーズンの幕開けを飾ります。

<資料のご請求、取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当:高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y1307@nntt.jac.go.jp

”好きなオペラ“の鉄板！ 絶大な人気を誇るプッチーニ永遠の青春群像劇『ラ・ボエーム』



19世紀パリを舞台に、詩人ロドルフォとお針子ミミの純愛、そして明日の成功を夢見る若き芸術家たちの貧しくも自由な生活を描いた青春オペラ『ラ・ボエーム』。ミュージカル『RENT』の原作としても有名で、夢を追い、一瞬一瞬を大切に生きる若者たちの物語は、いつの時代も共感と呼んでやみません。

クリスマス・イブのパリ、詩人ロドルフォが独り仕事をしていると、隣人のミミが灯りの火を貰いに現れ、二人はたちまち恋に落ちる。カルチェ・ラタンで恋を謳歌する若者たち。2月の雪の日、ロドルフォは病のミミを救うため別れを決意。やがてミミが瀕死の状態です。屋根裏部屋に運び込まれる――。

「冷たき手を」「私の名はミミ」の名アリアによって綴られる第1幕のロドルフォとミミの出会いのシーンは、数あるオペラのラブシーンの中でも最も美しい、決定的名場面。華やかなパリ、カルチェ・ラタンの賑わいを描いた第2幕、雪の降りしきる中、別れを決意した恋人たちの美しくも悲しい四重唱、そして涙を禁じえないラストシーンと、見どころは枚挙にいとまがありません。栗國淳の繊細な演出は、丁寧な心理描写で若者たちの夢と挫折の世界を対比し、感動を誘います。パリの街を俯瞰するような豪華な舞台も見どころです。永遠のラブストーリーとして不動の人気を誇る『ラ・ボエーム』は、常に“好きなオペラ”にランクインする鉄板の名作。夢を追い懸命に生きる若者たちの物語は、いつの時代も感動を呼び続けています。世界中で愛される『ラ・ボエーム』は、初めてのオペラ鑑賞にもお勧めです。



シーズン開幕にふさわしい最旬な歌手陣がオペラパレスに集結！



M.コスタ=ジャクソン



L.ガンチ

ヒロインのミミには繊細で情感豊かな表現を得意とし、ドラマティックな役柄へも活躍を拓けるソプラノ、マリーナ・コスタ=ジャクソンが新国立劇場初登場。ロドルフォには輝かしい声で魅了するトップテノール、ルチアーノ・ガンチが、新国立劇場へは23年『シモン・ボッカネグラ』に続き出演。マルチェッロにはミラノ・スカラ座などで活躍するイタリアの実力派バリトン、マッシモ・カヴァレッティが出演。ムゼッタは、ベルカントやリリックの主要な役どころで活躍を続け、今年新国立劇場『カルメン』ミカエラ、高校生のためのオペラ鑑賞教室公演の蝶々夫人役でも絶賛を博した伊藤晴が出演します。

指揮はイタリアの名匠パオロ・オルミが嬉しい再登場となります。



左上よりP.オルミ、栗國淳、M.コスタ=ジャクソン、L.ガンチ
M.カヴァレッティ、伊藤晴、駒田敏章、A.ペレグリーニ

<あらすじ>

クリスマス・イブのパリ。若くて貧しい芸術家4人が住む屋根裏部屋で詩人ロドルフォが独り仕事をしていると、隣人のお針子ミミがロウソクの火を貰いに現れ、二人はたちまち恋に落ちる。画家マルチェッロも元恋人のムゼッタとよりを戻し、若者達は恋を謳歌する。2月の雪の日、ロドルフォは極貧の自分では胸を患うミミを救えない、と痛恨の別れを決意する。数か月後、ミミが瀕死の状態です。屋根裏部屋に運び込まれるが…。



新国立劇場『ラ・ボエーム』ダイジェスト映像

https://www.youtube.com/watch?v=lqLA_gMuWao&t=5s

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】パオロ・オルミ

Paolo OLMI

英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、リヨン歌劇場、サンタ・チェチーリア管弦楽団、フィレンツェ歌劇場など世界各地で活躍。1990～93年、RAI 交響楽団音楽監督、2006～11年、ナンシー歌劇場及び同交響楽団音楽監督。02年からロンドン・ギルドホール音楽演劇学校客員教授、18年から北京大学オペラ・アカデミー客員教授。中国で指揮した初のイタリア人指揮者であり、インド、レバノン、オマーン、キューバなどへイタリア・オペラを紹介。ヨハネ・パウロ 2 世のローマ法王就任 20 周年祝賀コンサートは全世界に中継される。近年はイスラエル、パレスチナ自治政府、RAI(イタリア放送協会)、イタリア文化観光省の協力によるクリスマス／イースター・コンサートにも尽力、ベツレヘムのカリタス小児科病院などを支援する募金活動を行うなど、音楽やコラボレーションを通じて、異民族、異なる宗教間の平和と対話に貢献することを目指す。12 年には英国におけるイタリア・オペラの普及活動により女王賞を授与された。新国立劇場へは 99 年『仮面舞踏会』でデビューし、『ナブッコ』『ルチア』『愛の妙薬』『ドン・ジョヴァンニ』を指揮している。



【演出】栗國 淳

AGUNI Jun

東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法を M.ゴヴォーニに師事。文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊、H.ブロックハウスのもとで研鑽を積み、P.ファッジョーニ、A.ファッシーニなどの片腕としてヨーロッパを拠点に活躍。1997 年藤原歌劇団公演『愛の妙薬』で演出家デビュー。びわ湖ホール、二期会、神奈川県民共同制作『トゥーランドット』『アイダ』『オテロ』、東京二期会『仮面舞踏会』、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』、藤原歌劇団『ファルスタッフ』『ノルマ』、日生劇場『アイナダマール』(日本初演)『セビリアの理髪師』『マクベス』、紀尾井ホール『オリンピーアデ』など多数の作品を演出。海外ではサツサリ・ヴェルディ劇場『アンドレア・シェニエ』『エルナーニ』、スロヴェニア国立マリポール歌劇場『ホフマン物語』を演出。新国立劇場では『ラ・ボエーム』『セビリアの理髪師』『おさん』『フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ』『チェネントラ』『修道女アンジェリカ／子どもと魔法』などを演出。現在、日生劇場芸術参与、新国立劇場オペラ研修所プログラムアドバイザー兼アルテ・シェニカ講師。エクソンモービル音楽賞奨励賞受賞。



【ミミ】マリーナ・コスタ＝ジャクソン(ソプラノ)

Marina COSTA-JACKSON

アメリカ、ヨーロッパやアジアで活躍するソプラノ。2016年オペラリア・コンクール第2位など受賞多数。これまでにグレンジ・パーク・オペラ『ドン・カルロ』エリザベッタ、サヴォンリンナ音楽祭、ボリショイ・オペラ『オテロ』デズデーモナ、リスボン・サン・カルロス劇場、ケルン歌劇場『椿姫』ヴィオレッタ、ダラス・オペラ『ノルマ』アダルジーサ、ケルン歌劇場、メトロポリタン歌劇場『ラ・ボエーム』ミミ、パリ・オペラ座『カルメン』ミカエラなどに出演。最近では、サンディエゴ・オペラ『修道女アンジェリカ』タイトルロールと『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、ノースカロライナ・オペラ『マノン・レスコー』タイトルロール、ユタ・オペラ『ラ・ボエーム』ムゼッタ、カンザスシティ・リリック・オペラ『トスカ』タイトルロール、ロサンゼルス・オペラ『ラ・ボエーム』ミミ、シアトル・オペラ『エウゲニ・オネーギン』タチャーナ、英国ロイヤルオペラ『ホフマン物語』ジュリエッタ、ナッシュビル・オペラ『カルメン』ミカエラなどに出演。新国立劇場初登場。



【ロドルフォ】ルチアーノ・ガンチ(テノール)

Luciano GANCI

ローマ出身。2007 年オペラリア・コンクール入賞。ミラノ・スカラ座、サン・カルロ歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭、ボローニャ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、フィレンツェ歌劇場などで活躍。近年では、ローマ歌劇場(『アイダ』『道化師』『蝶々夫人』)、バルセロナ・リセウ大劇場(『アイダ』)、ボローニャ歌劇場(『アンドレア・シェニエ』『ヴェルディ・ガラ』『蝶々夫人』)、ウィーン国立歌劇場(『アドリアーナ・ルクヴルール』『トスカ』)などで成功を収める。最近ではボローニャ歌劇場『マノン・レスコー』デ・グリユー、ピアチェンツァ市立劇場『二人のフォスカリ』ヤコポ・フォスカリ、ノルウェー国立オペラ『蝶々夫人』、ザルツブルク・イースター音楽祭『レクイエム』、東京・春・音楽祭『アイダ』、デュッセルドルフ・ライン・ドイツ・オペラ『ドン・カルロ』、ルッカでのコンサート「プッチーニ・セコンド・ムーティ」、カラカラ浴場音楽祭『トゥーランドット』、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場『スティッフエリオ』、パルマ・ヴェルディ音楽祭『マクベス』『アッティラ』、ミラノ・スカラ座『運命の力』ドン・アルヴァーロ、ローマ歌劇場『トスカ』カヴァラドッシに出演。ヴェルディのレパートリーは 20 に及ぶ。新国立劇場では『シモン・ボッカネグラ』ガブリエーレ・アドルノで絶賛を博した。



【マルチェッロ】マッシモ・カヴァレッティ(バリトン)**Massimo CAVALLETTI**

イタリア出身。メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場などに次々と出演。2004年にスカラ座アカデミー制作公演にデビューして以来、スカラ座に『セビリアの理髪師』フィガロ、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『ラ・ボエーム』ショナール／マルチェッロ、『ルチア』エンリーコなどで出演を重ねる。チューリヒ歌劇場では『ラ・ボエーム』『ルチア』『カルメン』『シモン・ボッカネグラ』『ファルスタッフ』などに出演。英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』マルチェッロ、メトロポリタン歌劇場『カルメン』エスカミーリョをはじめ、ウィーン国立歌劇場、オランダ国立オペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、モネ劇場、ザルツブルク音楽祭などへ『カルメン』エスカミーリョ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『ファルスタッフ』フォード、『マノン・レスコー』レスコー、『シモン・ボッカネグラ』パオロなどの役で出演し、出演作の多くの録音・録画がリリースされている。新国立劇場へは15年『ファルスタッフ』フォードに出演して以来の登場。

**【ムゼッタ】伊藤 晴(ソプラノ)****ITO Hare**

三重大学卒業、武蔵野音楽大学大学院修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第25期生修了。ミラノ、パリで研鑽を積み、13年パリ地方音楽院修了。第9回藤沢オペラコンクール第2位。小澤征爾音楽塾子どものためのオペラ『子どもと魔法』『ジャンニ・スキッキ』などに出演。藤原歌劇団には『ラ・ボエーム』ムゼッタでデビューし、『カルメン』『ラ・トラヴィアータ』『愛の妙薬』『ラ・ボエーム』を東京・愛知公演で熱演。藤原歌劇団・NISSAY OPERA 2021『蝶々夫人』ではタイトルロールを務め、その後同役は各地で公演を重ね、絶賛を浴びた。24年には藤原歌劇団・NISSAY OPERA 2024『ピア・デ・トロメイ』ピアが称賛を集める。また日本オペラ協会には『天守物語』亀姫でデビューし、『夕鶴』つうも見事に演じた。新国立劇場では『修道女アンジェリカ』オスミーナ、『こうもり』イーダ、『夢遊病の女』リーザ、『カルメン』ミカエラ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』タイトルロールに出演。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。愛知県立芸術大学、武蔵野音楽大学各講師。

**【ショナール】駒田敏章(バリトン)****KOMADA Toshiaki**

愛知教育大学を経て東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第11期生としてオペラを学ぶ。研修所公演『ナクソス島のアリアドネ』音楽教師などを演じている。文化庁新進芸術家海外研修制度にてベルリンに留学。12年オランダ・グローニンゲンで開催された音楽祭にラヴェル『スペインの時』ラミーロで出演し、Labberte-Hoedemaker Awardを受賞。第83回日本音楽コンクール(歌曲)第1位。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ウェルテル』ジョアン、『ジュリオ・チェザレ』クーリオ、『ボリス・ゴドゥノフ』ニキーティチ/役人、『ラ・ボエーム』ショナール、『トリスタンとイゾルデ』舵取り、『魔笛』パパゲーノに出演。25/26シーズン『ウェルテル』ジョアン、高校生のためのオペラ鑑賞教室2025 ロームシアター京都公演『魔笛』パパゲーノに出演予定。

**【コッリーネ】アンドレア・ペレグリーニ(バス)****Andrea PELLEGRINI**

パルマのボーイト音楽院を2014年に卒業。16年～18年、パレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿のプラシド・ドミンゴセンターに参加し、同劇場のオペラに数多く出演。パルマ王立歌劇場、レッジョ・エミリア歌劇場などで『トスカ』アンジェロティ、『セビリアの理髪師』フィオレロに出演するほか、パルマのヴェルディ音楽祭で『椿姫』『ファルスタッフ』『シモン・ボッカネグラ』『運命の力』などに出演。パルマ王立歌劇場『リア王』ではタイトルロールに出演した。その後パレルモ・マッシモ劇場『エルナーニ』『シチリアの晩鐘』、パルマ王立歌劇場『ペレアスとメリザンド』、モデナ歌劇場『ドン・カルロ』などに出演。22年にはミラノ・スカラ座のシーズン開幕作品『マクベス』医師に出演し、その後同劇場で『シチリアの晩鐘』ペトゥーネ卿、『フェドーラ』チリッロ、『シモン・ボッカネグラ』ピエトロなどに出演。最近の出演に、モデナ歌劇場『清教徒』ヴァルトン卿、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』ピエトロなどがある。新国立劇場初登場。



新国立劇場 2025/2026 シーズンオペラ 開幕公演
 令和7年度(第80回)文化庁芸術祭オープニング・オペラ
 ジャコモ・プッチーニ
ラ・ボエーム
 La Bohème / Giacomo PUCCINI
 全4幕〈イタリア語上演/日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】 2025年10月1日(水)18:00/4日(土)14:00/7日(火)13:00〈貸切〉/9日(木)14:00/11日(土)13:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】 S:26,400円・A:22,000円・B:15,400円・C:9,900円・D:6,600円・Z:1,650円

【前売開始】 2025年8月9日(土) 10:00～

※予定上演時間 約2時間50分(休憩含む)

指揮	パオロ・オルミ	ミミ	マリーナ・コスタ＝ジャクソン
Conductor	Paolo OLMI	Mimi	Marina COSTA-JACKSON
演出	粟國 淳	ロドルフォ	ルチアーノ・ガンチ
Production	AGUNI Jun	Rodolfo	Luciano GANCI
美術	パスクアーレ・グロッシ	マルチェット	マッシモ・カヴァレッティ
Set Design	Pasquale GROSSI	Marcello	Massimo CAVALLETTI
衣裳	アレックスandro・チャンマルーギ	ムゼッタ	伊藤 晴
Costume Design	Alessandro CIAMMARUGHI	Musetta	ITO Hare
照明	笠原俊幸	シヨナール	駒田敏章
Lighting Design	KASAHARA Toshiyuki	Schaunard	KOMADA Toshiaki
		コッリーネ	アンドレア・ペレグリーニ
		Colline	Andrea PELLEGRINI
		ベノア	志村文彦
		Benoit	SHIMURA Fumihiko
		アルチンドロ	晴 雅彦
		Alcindoro	HARE Masahiko
		パルピニョール	高島伸吾
		Parpignol	TAKABATAKE Shingo

合唱指揮	富平恭平
Chorus Master	TOMIHIRA Kyohei
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
児童合唱	世田谷ジュニア合唱団
Children Chorus	Setagaya Junior Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/laboheme/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)
 新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* Z席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】



【11】



【12】



【13】



【14】

新国立劇場『ラ・ボエーム』2012年公演より 撮影:三枝近志